

29. 長寿論と高齢化社会 黒田俊夫（日本大学）
 　　＜座長＞廣嶋清志（島根大学）
30. 人口研究におけるフォーカス・グループの可能性 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
 　　安藏伸治（明治大学）
31. デモグラフィックスとマイクロマーケティング 池田一夫（東京都立衛生研究所）
 　　32. インターネットによる人口動態統計の提供 上村 尚（東京都立衛生研究所）
 　　（金子武治記）

日本経済政策学会第55回大会

日本経済政策学会（会長：植草益・東洋大学教授）の第55回大会（準備委員長：野尻武敏・大阪学院大学教授）が1998年5月23日（土）～24日（日）の二日間にわたって大阪府吹田市の大蔵学院大学で開かれた。今回は「経済政策の有効性を問う」がテーマとなっており、そのテーマの下に初日には共通論題報告・討論が行われ、二日目には11の自由論題報告セッションが設けられた。人口に関する報告は自由論題報告のいくつかのセッションに分散していたが、それらは以下の通りであった。

- Session 1 「社会保障」 ＜座長＞水野朝夫（中央大学）
 　　(2) 人口高齢化と医療費に関する分析
 　　　　＜報告者＞佐川和彦（東海大学短期大学部）
 　　　　＜討論者＞塙原康博（明治大学短期大学）
- Session 4 「地域経済」 ＜座長＞樺本 功（広島市立大学）
 　　(1) 地域の雇用の成長と労働市場への影響
 　　　　＜報告者＞坂西明子（大阪府立大学）
 　　　　＜討論者＞吉田良生（朝日大学）
- Session 9 「福祉政策」 ＜座長＞横井弘美（名古屋学院大学）
 　　(1) 新たな試練に立つ高度福祉国家・スウェーデン
 　　　　－国家のノーマライゼーションと家庭のインテグレーションの必要性－
 　　　　＜報告者＞桜井等至（近畿大学）
 　　　　＜討論者＞永山泰彦（東海大学）
 　　(2) 障害者雇用の日米比較－人的資本活用の観点から－
 　　　　＜報告者＞茅原聖治（大阪府立大学）
 　　　　＜討論者＞工藤 正（日本障害者雇用促進協会）
- Session 10 「地域経済」 ＜座長＞ 加藤壽延（亞細亞大学）
 　　(2) 中東諸国における有配偶女子の労働供給
 　　　　＜報告者＞小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
 　　　　＜討論者＞駿河輝和（大阪府立大学）

同時に開かれたセッションもあり、すべてを聞くことができなかつたが、人口に関する報告は若手の研究者により行われて熱のこもつたものが比較的多かった。
(小島 宏記)

KIHASA・UNFPA 主催 「低出生力国における人口・開発政策に関する国際シンポジウム」

韓国保健社会研究院（KIHASA）と国連人口基金（UNFPA）の共催で1998年5月7日（木）～12日（火）の5日間（日曜日は休会）にわたって、韓国ソウル特別市のオリンピック・パークテルで「低出生力国における人口・開発政策に関する国際シンポジウム（International Symposium on Population and Development Policies in Low Fertility Countries）」が開催された。韓国人8名（うち2名は海外からの参加）を含む37名が参加したが、海外からの参加者には前国際人口学会会長のJ. C. CALDWELL オーストラリア国立大学教授、『エイジングの経済学』（最近、佐藤隆三・嵯峨座晴夫監訳／佐藤優子訳で頸草書房から刊行された）で著名なJ. H. SCHULTZ ブランダイス大学教授も含まれていた。日本からは河野綱典・麗澤大学教授が座長（Session 4）と小川直宏・日本大学教授が討論者（Session 1）を務められ、当研究所の阿藤副所長と小生が論文（それぞれSession 2とSession 4）を発表した。アジア太平洋地域からの参加者が多数を占めていたが、ヨーロッパからも国際応用システム分析研究所（IIASA）のW. LUTZ 博士等の人口学者が参加しただけでなく、トルコで高齢女性を支援するNGOの代表まで参加していたことは非常に興味深かった。

初日のはじめにMo-Im KIM 厚生大臣が挨拶されたが、もともとは家族計画関連の研究で著名な研究者であった方なので、興味深い巡り合わせとなつた。その後、KIHASAとUNFPAの代表による挨拶に続き、以下の6つのセッションが行われた。

- Session 1: New Population and Development Policies in the Context of Rapid Fertility Changes and the ICPD Programmes of Action
- Session 2: Consequences of Low Fertility and Policy Responses
- Session 3: Social Responses to Rapid Demographic Changes
- Session 4: Policy Issues of Population Aging
- Session 5: Programme and Policy Challenges
- Session 6: Synthesis and Conclusions

なお、阿藤副所長は“Countries with Substantially Below Replacement: Japan”，小生は“Aging and Social Welfare Policies-Health Care and Income Maintenance Programme: Japanese Experience”と題された論文を発表した。また、同シンポジウムの概要報告書（Proceedings of International Symposium on Population and Development Policies in Low Fertility Countries）がKIHASAのSymposium Report 98-01としてすでに刊行されているので、詳細については同冊子を参照されたい。
(小島 宏記)